令　和　７年　度
千 早 赤 阪 村 立 学 校
評　価　報　告　書

学校名（千早赤阪村立千早小吹台小学校）

校長名（ 越 口 直 史 ）

１．教育目標

本校教育目標

《キャッチフレーズ》 やさしさと笑顔いっぱいの学校

《教育目標》「豊かな心」「確かな学力」「健康な身体」の育成

めざす学校像	めざす子ども像	めざす教師像
○明るい学校	○人の気持ちがわかる子	○人権意識を大切にする教師
○楽しい学校	○すすんで学ぶ子	○授業を工夫改善し研修に努める教師
○開かれた学校	○元気でたくましい子	○チームを意識し緊密に連携協力する教師

２．経営方針

めざす学校　　明るい「あいさつ」「笑顔」を大切に⇒自分から進んであいさつをする。

めざす子ども像　「小さな成功体験」を重ねることで自信を持ち、自己肯定感、自尊感情が高まり、自分のこと　が好きになる。失敗を恐れず挑戦する心が養われる。

自分のことを大切に思う気持ちが、他の人のことも同じように大切に思うことにつながる。

自己有用感を持てるような学級での活動、居場所作りも同様に自尊感情の育ちにつながる。

自己肯定感や自尊感情が高くなることが、すべての活動の土台の安定につながる。

⇒『生きる力』の育成

めざす教師像

〇人権意識を大切にする教師

・全学校教育活動に対して、人権意識を高く持って取り組む＋研修への積極的な参加

〇授業を工夫改善し研修に努める教師

・日々の授業作りの工夫改善　⇒人から学ぶ姿勢、自分に対する意見を求める謙虚な姿勢

・研修への積極的な参加

〇チームを意識し緊密に連携協力する教師

・自分の経験による判断にとらわれず、広く意見を聞く姿勢を持つとともに、常に情報共有を意識する　⇒　組織的に対応する、一人で抱え込まない

・教職員一人ひとりの良さが輝き、生かせるチームワーク

⇒意見があれば全体の場に積極的に出す

《重点目標》

◆『ともに学び　ともに育つ』支援教育の視点に基づいた学校作り

個性を認め尊重し合い、協力し、だれもが安心して学べる「授業」「学校環境」を作る

・児童それぞれの良さを認め、生かし、寄り添い、助け合う姿勢を大切にしたクラス作り（自尊心、自己肯定感、自己有用感の高揚、他者理解の促進）

・教職員それぞれの良さを発揮し、補い合い、組織的に取り組む職員室作り

・授業力の向上（「わかる授業」「学ぶ意欲を高める授業づくり」に向う取組み

『チーム千早小吹台』

（1）教職員の心身の健康

（2）それぞれの得意・意欲をのばす

（3）支え補い合ったチーム千台小

◆教育の個別最適化、次世代型学習の推進

一人1台端末を活用するための研究、実践を推進し、従来のノート学習の見直しとともに、次世代型学習のあり方を追求する

・デジタル教科書、グーグルクラスルーム、ロイロノート等を活用しながら、「個別最適化された学び」と「協働学習」のあり方、可能性について研究していく。

・自学自習を進めるためのノート作りの推進

◆特色ある学校作りの推進

地域と連携を取りながら、学校教育の課題に取り組むとともに、郷土である大阪府唯一の村「千早赤阪村」に誇りと愛着を持ち、さらに広い世界ともつながろうとする子どもたちを育む

・郷土学習を進める（歴史・文化・自然・名所などにおける学習内容の充実）

・人権意識を高める国際理解学習の継続と質の向上に努める

・言語活用能力（日本語・英語）、発信力を高め、校内、校外へ発信する機会を増やす。

３． 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅰ 社会を生き抜く、確かな学力づくり
P	重点目標	※下記の数字は、千早赤阪村学校方針記載の番号に対応した番号で記載しています。 （1）多様な教科を通し、「探究」の場を設定した授業を展開し、子ども達自ら課題を立て、情報を整理・分析し、まとめ・表現する学習活動を追求する。【学・研部】 （2）外国語科・外国語活動 研究テーマ「低・中学年…音声に十分に親しませる授業づくり」 「高学年…自分の想いを伝える言語活動の設定」【学・研部】 （4）一人一人の児童の持てる力を高めるための支援、また、生活や学習上の困難を改善・克服するための支援をすることにより、自立と社会参加に向けた生きる力を育てる。【学・研部】
D	具体的な取り組み内容	（1）テーマに沿った授業づくり・研究授業を行うようにする。 （2）外国語活動・外国語科での研究授業１本と、ビデオ撮影をもとにした授業検討会、探究をテーマとした研究授業を行う 外国語の活用場面として、海外の学校との交流活動を積極的に行う （4）支援学級の公開授業を通して、それぞれの障がいの特性に合った指導について研修を深める。支援交流会の開催
C	自己評価／成果と課題	（1）低中高学年部会に分かれて、全教員が公開授業を実施し、探究を深めることができた。これから始まる「未来プラン」へも繋がる一歩になったと思う。半面、共通理解ができていない中で、研究授業に取り組むという難しさもあった。 （2）新しい講師による指導助言を聞くことで、新たな学びを得ることがあった。外国語の授業を担任が ＴＩとして行うことの良さを再確認し、これまで取り組んできたことを捉え直すことができた。しかし、担任が ＴＩ として外国語の授業を担うことの負担は大きい。村へ赴任した教員への負担の大きさは計り知れない。担任が行うことのよさはあるが、それを支える手や研修は不足していると思う。専科指導担当がまとめて外国語の授業を担うことも、一つの方法だと思う。 （4）支援学級の公開を１月に変更し実施した。全教員が参加することができなかったため、授業を録画し、後日各自が視聴する様にした。当日、村教委指導主事が参観し、個に応じた指導や授業づくりについて指導助言を頂いた。支援交流会は、計3回実施し、対象児童の情報や目標・評価等を共有した。
A	次年度に向けて	（1）来年度以降の方向性（テーマ・研究体制や内容等）について、アンケート結果等をもとに提案予定。 （2）外国語担当者会議や校長会等で、外国語を指導する教員の育成に向けての取り組みの持ち方、専科指導等ついて、現状を報告する。（校内で年度当初、スタンダード研修実施） （4）支援交流会の資料が見やすくなるよう形式を見直す予定。

３．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ　豊かな心、たくましい人づくり
P	重点目標	(2) 思いやりと自他の生命を大切にする心を持ち，よりよく生きようとする子どもを育てる。【学・研部】 (3) 豊かな人間性を持ち、自他との違いが分かり、自他の人権を尊重する態度を育て、差別をしない差別を許さない実践力を身につけた子を育成する。【学・研部】 (4) 体育活動を通して、運動の楽しさや喜びに触れさせ、運動好きな子どもを育成する。【健教部】 (5) 食に関する指導を通して豊かな心情を育て、正しい食生活のあり方を身につけさせる。【健教部】 (6) 郷土を知り、愛し、誇りをもって語れる子どもを育成する。
D	具体的な取り組み内容	(2) 道徳の授業を、授業参観で行う。 (3) 人権ウィーク(各学期)を設定し、各学級で人権学習を行う。 『人権教育教材集・資料』等を使った授業実践の記録、交流会を行う。 ※学習指導案作成の際には、「人権教育の観点」を記載する。 (4) 運動能力、体力の測定診断を各学年で行い、身体的発達を把握し体の成長を児童に感じさせる。 水に浮き、呼吸し、進む技術を身につけることで、運動としての水泳を楽しませる。水による事故を未然に防ぐための技能を身につけさせる。 健康増進、体力向上をめざすとともに持久力、忍耐力を養うために、かけ足運動・マラソン大会を開催する。 (5) 関連する教科等において、食に関する指導の視点を位置付けて指導し、食に関する全体計画に書き込む。 (6) 総合的な学習の時間に、郷土の題材を通し探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決する活動を取り入れる。
C	自己評価／成果と課題	(2) 道徳の授業を、授業参観で行い、児童が自らの生き方についての考えを深めようとする姿を提示することができた。 (3)人権ウィークを各学期１週間設定した。校内夏季研修の中で人権教育実践交流会を行い、授業実践を交流した。また、校内研究授業の指導案では、人権教育の観点を記載した。 (4) 体力テストなどの結果を考察し、児童の運動能力に関する課題を把握して、その課題を克服するべく必要な遊びや体育的な行事を提案し、取り組むことができた。成果を維持するために継続して取り組んでいく必要がある。 (5) 毎月、月末に職員朝礼で書き込みの呼びかけをし、学校全体で取り組みを勧められた。 (6) 地域の土地の様子や商店の数、空き家状況、交通状況など、見学を通し生まれた疑問を調べる内に、地域に対し興味を持ちだす児童がみられた。自分が住む地域を目的をもって散策することで、新たな気づきが生まれ、課題等を解決し、発表する児童がいた。
A	次年度に向けて	(2) 次年度も引き続き授業参観で、道徳の授業を行う。また、別葉などを活用し、学校全体で道徳教育ができるようにしていく。 (3)来年度も学期に１度人権ウィークを実施し、『人権教育教材集・資料』等を使った人権授業実践の記録、交流会を行う。 (4) 各学年の児童の運動能力や体力を把握し、必要な場の設定（遊びや体育的行事）を継続的に行う。 (5) 食に関する全体計画を職員全体で共有する場を定期的に設ける。 (6) 未来プランに関わり、地域に疑問や興味関心をもち実際にそれらを解決する追求・体験型の活動を増やす。

３．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり（3-1 安心安全な学校づくりの推進）
P	重点目標	（1）全校一貫した指導により基本的な生活習慣を身につけさせ、一人ひとりを尊重し、ともに高めあえる集団づくりをめざす。【生指部】 （3）災害時の安全や交通安全、防犯についてよく知り自分で判断し行動できる子どもを育成する。【生指部】 （4）代替食対応を実施し、すべての児童が給食時間を安全に、楽しく過ごせるように努める。また、すべての教職員が緊急時に対応できるようにする。【健教部】
D	具体的な取り組み内容	（1）こころと体とくらしのアンケートの実施、職員会議の『気になる児童』で情報共有、月毎いじめ調査の実施 （3）交通安全教室、不審者対策訓練、避難訓練（火災、地震）、児童引き渡し訓練の実施 （4）アレルギーチェック、アレルギー研修会の実施
C	自己評価／成果と課題	（1）職員会議や職員朝会で情報共有を早期に行うことで、全職員が同じ方向性で指導に当たることができた。新たに児童の肯定面を共有する研修と場も設定したことで、児童理解がさらに深まることができた。いじめ調査は、各担任が些細なトラブルでも報告し、いじめの認知についての感度は高くなっている。 （3）（交通安全教室）体育館での実施から各教室で実施（モニター活用）を検討する。 (不審者対策訓練)不測時の対応ができなかった。その場合、児童や教員にも大きな被害が出たと思う。それらを踏まえて、不審者に気づいた大人は、早急に職員室へつながるまで内線を入れ続けることが大切である。 （避難訓練：火災）児童の体育館への入場、マスク・防災頭巾の着用等、良かった。 （避難訓練：地震）1 月に行うことで、阪神淡路大震災についても触れられるし、震災献立も近いので、よい時期だったと思う。 （引き渡し訓練）災害時に安全に児童を保護者に引き渡すことができるように、保護者と連携を図りスムーズに訓練できた。 （4）給食時の除去食対応は複数の教員で確認する体制を整えている。アレルギーの校内研修は 4 月初旬にミニ版を1回、夏季休暇中に1回行った。シミュレーションでは、役割分担をその場で決定するように変更したことで、より実践的な研修となった。
A	次年度に向けて	（1）アンケートで「学校に来ることが、時々嫌な時がある」と答えた児童の中に、原因が家庭等に起因していることも多く対応が難しい。しかし学校がその児童の受け皿として、「一人ひとりの居場所作り」になる様、さらなる充実が必要だと考える。 （3）今年度の反省を生かし、修正案を提示していく。 （4）今後も同様に続けていく予定。

３．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり（3-2 学校および教職員の資質向上）
P	重点目標	（1）教職員それぞれの良さを発揮できる「チーム千早小吹台」の推進。 （3）効率的な働き方を積極的に取り入れる。 （4）学校支援地域本部の組織を核にし、地域と連携を取りながら、学校教育の課題に取り組む。【地域支援本部】 （5）不祥事・ハラスメント防止に努め、教育公務員としての自覚を促す。
D	具体的な取り組み内容	（1）授業観察における各教職員の取り組みの共有 （3）時間外勤務状況の把握 （4）学校支援地域本部及び各活動の推進 PTA 活動の支援 外部団体等を活用した教育活動の推進 （5）「不祥事防止ガイドブック」等を活用した校内研修の実施
C	自己評価／成果と課題	（1）授業観察における各教職員の取り組みの共有 教員のキャリア・ステージに応じた観点で授業観察を実施し、適切な指導助言を行った。 ※校内研修等においての全員で課題に取り組む体制が、チームとしての一体感に繋がった。 ※教職員アンケートにおいて偏った分掌への指摘や「健康に不安を感じる」の記述が見られた。 （3）時間外勤務状況の把握 一部の月で、数名の教員が40時間を超える時間外勤務になった。 （4）学校支援地域本部及び各活動の推進 PTA 活動の支援・・・役員・実行委員の選出にあたり、従来の投票を改め、事前の意向調査の回答から、受諾可能な会員から選出する方法に変更、保護者の負担を軽減した。 外部団体等を活用した教育活動の推進 学校支援地域本部…七夕集会や陶芸教室、花ボランティアなど、地域の中の学校として、たくさん支援していただいた。また、放課後勉強室やクラブ・家庭科支援など、地域の方に参加していただくことで、児童らが安心して教育活動に励むことができた。 その他・・・富田林人権擁護委員協議会と連携した「人権教室」 富田林税務署と連携した「租税教室」・・・共にｹﾞｽﾄﾃｨﾁｬｰ的な外部の方からの話は、児童に効果的であった。 （5）今年度全国で多発したわいせつ事案を中心に、ハラスメントや公職選挙法の順守など、時事に合わせた内容の研修を職員会議時に実施した。
A	次年度に向けて	（1）労働環境衛生委員会を設置し、自身の負担を申告できる体制を作り、過度な負担のない職場づくりに努める。 （3）時間外勤務状況の把握 学期や年度初めは業務が多忙になるが、なんとかして軽減に努めたい （4）学校支援地域本部及び各活動の推進 PTA 活動…保護者の価値観の変容等に合わせ、負担感の少ない体制・活動に移行する。 学校支援地域本部…取り組みを職員で共有し、保護者の方への周知と参加を図り、学校・地域が無理のない形でお互い補完する活動を継続していく。 その他外部団体…学校・学級経営や教科指導等に効果的な教育活動を継続していく。 次年度、村学校運営協議会に、教育活動に効果的な団体との橋渡しを依頼する。 （5）次年度以降も、実施予定

４．教育自己評価

【教職員による評価】

「教職員アンケート」結果を見ると、おおむね肯定的な回答が見られた。

「この学校で働くことにやりがいを感じている」・・・90％「今後もこの学校で教育活動に関わりたいと思う」・・・81.9％

しかし「小規模校・少人数の教職員であっても校務分掌の量は減らないため、 特定の教職員に過度に仕事が集中している」 との回答（割合）と自由記述があった。この課題に関しては、少しでも改善できる様、校務分掌の編成時に配慮したい。

【外部アンケート等】

「児童アンケート」の結果では、おおむね肯定的な回答が見られた。

しかし「学校が楽しい」「授業がよくわかる」「学校にあなたの気持ちが分かる」の質問に否定的な回答した児童が数名いたことを重くとらえ、少人数のきめ細かな指導を通し、全ての児童が「楽しい・わかる・友達がいる」となる様、丁寧な見取りをしていく必要がある。

「保護者のアンケート」でも、おおむね肯定的な回答が見られた。

3つの項目（「学校の雰囲気は活発である」「通知表は子どもの学力や達成度を適切に評価できる様工夫している」「学校・学級からの配布文書は読みやすく内容がわかる」）について、肯定的な回答が100％だった。

4つの項目（「学校は、保護者・地域の願いに応えている」「基礎的な学力が身に付いている」「学校は、豊かな心を持った子どもを育てている」「職員は、公平な態度で子どもに接している」「職員は、子どもについての相談に応じてくれる」「施設や学習用具は、よく整備されている」）について、C（あまり思わない）へ3～4 名の保護者が回答していた。全保護者から肯定的な回答を得ることが難しいのはわかるが、小規模校できめ細やかに指導できる本校で「基礎学力」や「道徳的な心の涵養」に関する質問や職員の資質に関する質問に否定的な回答が返ってくることに関しては、真摯に受け止め、教職員全体で対応していきたい

５．学校関係者評価

学校評議員会議より

【1学期】「教職員の心身の健康、学校支援地域本部の活動への助言、保護者の視点から見た学校運営」について

・教職員の不調の兆候を見逃さず、学校体制で支援をする。

・無理のない形で、地域・学校がお互い補完する活動を継続できたらよいと思う。

・スクールサポーターを含めて、支援を要する子ども達へきめ細やかな支援ができていると感じる。先生方の負担がなければ引き続き、みてもらいたい。

【2学期】「今年度の学校行事（運動会・マラソン大会）、児童の様子」について

・競技の内容について 教職員が短時間で効率的に指導した努力を感じた。

・応援と同時に、見守りも担う保護者が多くいた様に見えた。

・登下校時に、子ども達の方が先に挨拶してくれる場面が多くあった。

・担任の負担が多いと思う。軽減して頂きたい。

【3学期】「学校自己診断の結果、地域に開かれた学校」について

・明るく開かれた学校であり教員への信頼が高いことが分った。

・千早赤阪村「未来の学校、地域」創生プラン発足する事で、子供達の学びが広くなる事を期待している。

・積雪の日の登校について、2/9(月)Aバスが積雪の為登校出来ず、くすのきホールで自主勉となった。子供達は給食も準備され、臨機応変にして頂いてありがたいと思った。

６．第三者評価

実施せず